

診療所を中核とした地域医療経営人材育成プログラム 授業計画

授業科目名	地域包括ケアと医療経営	担当者	石井富美	実施月	2018年9月～11月
-------	-------------	-----	------	-----	-------------

■講義目的

2025年問題を控え、地域包括ケアシステムの構築が急務となり、さらに社会保障制度の将来像である保健医療2035が提示された今、医療・介護の現場は大きな変革の時を迎えている。地域に則した医療・介護サービスの提供を主軸に置いた経営戦略が求められている。地域医療経営の本質と何か？地域医療経営に必要な整備要件や人材育成、地域住民への啓蒙等に言及し、CSRの視点から医療関連機関・企業の経営の在り方を学ぶ。

■各回の授業内容

第1回 1-2 講時

地域包括ケアシステム時代の多職種間コミュニケーション

地域包括ケアシステム時代にはダイバーシティに対応できるコミュニケーション力が求められます。セルフメディエーションを用いたコミュニケーション力を講義とロールプレイで学びます。

「コミュニケーションスキル実習」

第2回 3-4 講時

地域包括ケアシステムにおける「医療」の役割

地域包括ケアシステムのフィールドは地域での「暮らし」です。少子高齢化社会の「暮らし」をささえる医療の役割を共に考えます。

「フレイル予防とまちのり・デザイン」

第3回 5-6 講時

保健医療 2035 を読み解く

人口減少社会における社会保障制度の在り方を示した保健医療 2035 を読み解き、今から20年かけてヘルスケアに携わる専門職は何をしていく必要があるのか、行政、企業、民間団体に求められている役割を共に考えます。

「全国に広がる“まちの保健室”の事例紹介」

第4回 7-8 講時

地域まるごとケアの実践事例から学ぶ医療・介護専門職の新たな働き方

地域の中での多世代、様々なハンディキャップを越えて交流する仕組みを作り、医療・介護の専門職が関わりながら地域の暮らしの中で生き、暮らしの中で看取る仕組みを先進事例から学びます。

「人口減少地域での先進事例紹介」

第5回 9-10 講時

個人の尊厳とQOLとQOD

骨太方針 2017 にも明記され、社会保障制度改革国民会議の報告書にも記されていた死生観の多様性、QOD などについて、ACPの普及に向けた取り組みも交えながら共に考えます。

「在宅看取りの現状と課題」

第6回 11-12 講時

医療関連機関の地域医療への取り組み事例

高齢化率がすすみ、地域活動にも影響が出始めたまちの見守り、生き甲斐づくりの取り組みについて事例を紹介し、自分たちの地域の将来について考えます。

「高齢者見守りネットワーク事例紹介」

第7回 13-14 講時

病診連携をはじめとした各医療関連機関・企業との連携の取り組み

患者さんを中心とした診療での連携だけではなく、リビングラボも視野に入れた幅広い連携について、事例を紹介しながら、自分たちのリソースを活用した新しい取り組みを共に考えます。

「デザイン思考からの社会課題解決」

以上を予定しておりますが、プログラムが変更になる場合があります。

■授業方法

講義とグループワーク、ケースによるディスカッションを中心に進めます。

■参考文献<著者『タイトル』出版社、出版年>

- ・地域包括ケアシステム web ページ
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/
- ・経産省 次世代ヘルスケア産業協議会資料

http://www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/mono_info_service.html

・厚労省「認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）」「保健医療2035」

・経済財政運営と改革の基本方針2017

<http://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/cabinet/2017/decision0609.html>

・デザイン思考からの社会課題解決

<http://fixperts.org/>

■成績評価の基準と評価方法

平常レポート 60 % グループワークへの参加(20%) 出席状況(20%)、